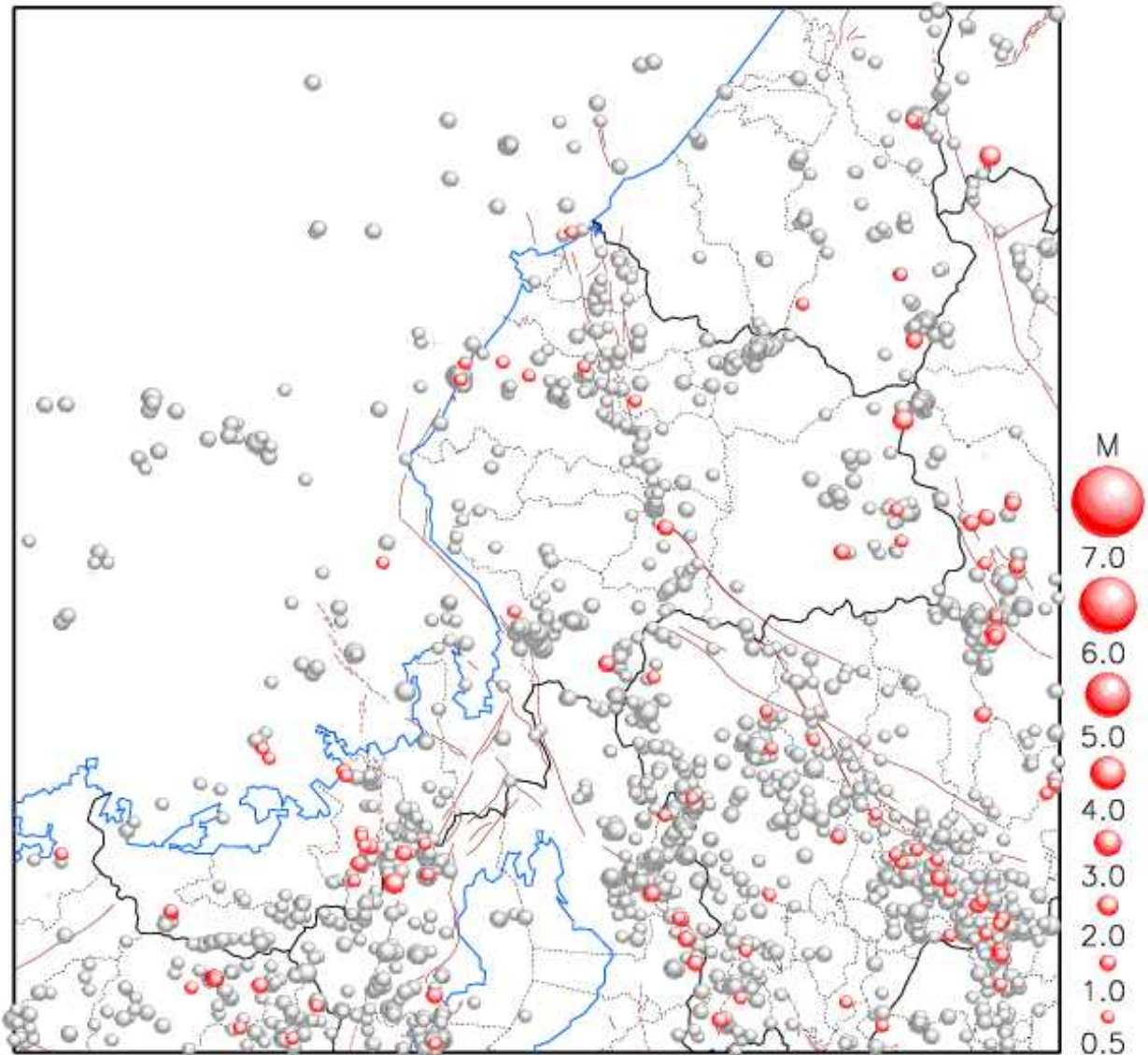


福井県の地震活動 令和元年（2019年）5月



— : 地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す (破線は位置やや不明確)

震央分布図

(2018年6月1日～2019年5月31日 深さ ≤ 30 km M ≥ 0.5) 2019年5月の地震を赤く表示

1 概況

この期間、県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

2 過去1年間の福井県内で震度1以上を観測した地震の回数表 (月別)

2018年							2019年				
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
4	0	2	0	3	2	1	1	2	2	0	0

3 福井県内震度観測点 (2019年5月1日現在)



最新の地震情報や津波警報・注意報は、気象庁ホームページから確認できますのでご利用ください。

津波警報・注意報 <https://www.jma.go.jp/jp/tsunami/>

地震情報 <https://www.jma.go.jp/jp/quake/>

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

この件に関する問い合わせ先

福井地方気象台 電話0776-24-0096

福井地方気象台ホームページの「福井県の地震概況」にも掲示していますのでご利用下さい。
アドレス https://www.jma-net.go.jp/fukui/topics/Gui_Jisin.html

【防災一口メモ】 福井地震（県内過去最大の被害地震）

今年も、福井地震が起こった6月がやってきました。最近、福井県では大きな地震は発生していませんが、今から71年前に「福井地震」が発生し、大きな被害が発生しました。

（概要、被害）

福井地震は、戦後直ぐの1948(昭和23)年6月28日、福井平野の中部から東部を震源域として発生した陸域の浅い地震で、最大震度6を観測し、地震の規模(マグニチュード)は7.1と推定されます。

軟弱な地盤が広がる福井平野では、家屋の全壊率が100%に達する集落も多くありました。被害は、死者3,769名、家屋全壊36,000棟以上でしたが、その発生地域は、福井平野及びその周辺に限られます。また、鉄道・道路・河川などに関する構造物に大きな被害*が生じました。さらに、福井市など福井平野の各地で火災が発生して焼失家屋数は3,851棟に達しました。その後、梅雨末期の大雨により、土砂崩れや洪水・浸水が発生しました。

福井地震は、戦災・地震・火災・水害の「複合災害」でした。

*被害状況 鉄道: 鉄路や路盤の変状、築堤の崩壊など 道路: 亀裂・沈下・移動など
河川: 堤防の沈下、道路橋・鉄道橋の転落、橋脚の沈下など [日本被害地震総覧より]

（震度分布）

福井平野の中央部など震源域に近い地域では当時の最大階級である震度6でしたが、家屋の倒壊等の被害が極めて大きかったため、この地震を契機として、気象庁震度階級に震度7が追加されました。福井平野の中・北部では、ほとんどの地域で家屋全壊率が30%以上に達し、震度7相当であったと推定されます。

（震源断層）

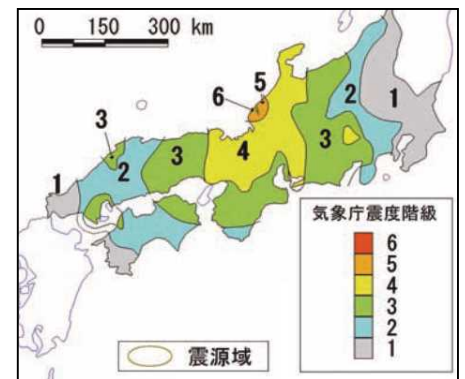
福井地震では、地表に目に見える断層は生じませんでした。周辺での測地測量の結果から、北北西-南南東方向の地下の震源断層によるずれが福井平野の東で確認されました。震源断層東側が相対的に最高約70cm隆起し、西側が南に最大約2m近くずれました。この震源断層は、現在政府の地震調査委員会により「福井平野東縁断層帯西部」として評価されています。



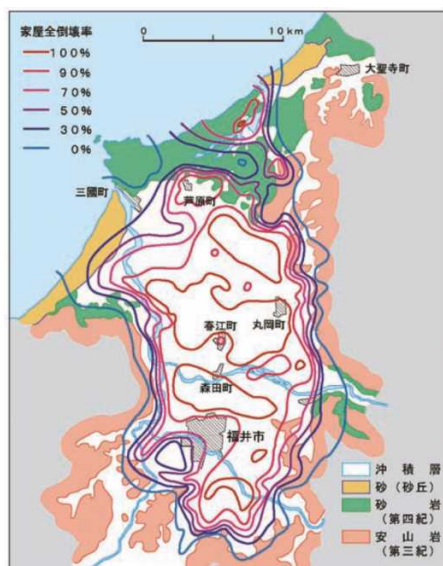
旧福井地方気象台の庁舎全壊写真



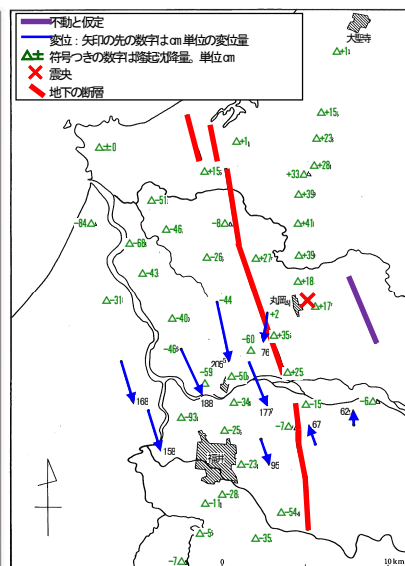
震源地付近の石碑写真 [坂井市(旧丸岡町)]



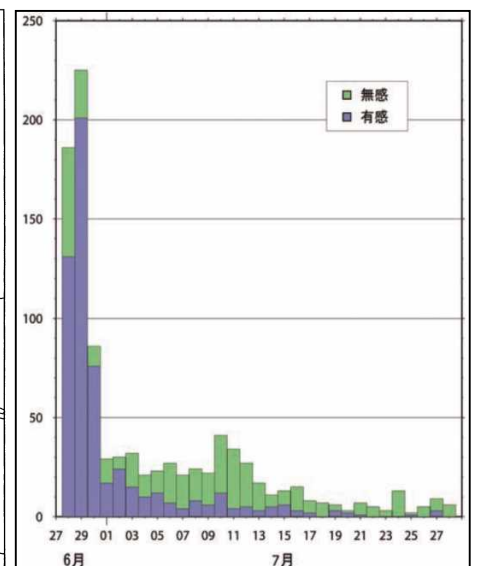
福井地震の震度分布図 [気象庁(1968)による]



福井地震の家屋全壊率分布と地盤
[「日本の地震活動」による]



福井地震の地殻変動と断層
[「日本被害地震総覧」による]



福井地震の毎日余震回数 1948年(昭和23年)
[「日本の地震活動」による]